

■ 参考資料

○ 大垣公園等再整備基本計画（市民検討委員会）

大垣公園等再整備基本計画

～「100年先まで愛され続ける大垣のシンボルパーク」を目指して～



令和6年11月

大垣公園等再整備基本計画市民検討委員会

目 次

1	はじめに	1
2	新大垣城ホールの機能及び規模	2
(1)	新大垣城ホールの機能	2
(2)	新大垣城ホールのコンセプト	3
(3)	現大垣城ホールの施設規模	4
(4)	新大垣城ホールの施設規模等	5
3	新大垣城ホールの建設候補地	15
(1)	建設候補地の条件整理	15
(2)	候補地の検討結果	16
4	大垣公園等の再整備	17
(1)	大垣公園等の状況	17
(2)	新大垣公園等のゾーニングと動線	18
(3)	新大垣公園等の規模	19
5	広場エリアの再整備	20
(1)	広場エリアの検討事項	20
(2)	広場の現況	20
(3)	利用実態調査等	21
(4)	広場エリアの主な施設	23
6	駐車場・駐輪場の規模	27
(1)	駐車場・駐輪場の整備	27
(2)	現状施設の概要	27
(3)	利用実態調査	28
(4)	駐車場必要台数の算定	34
(5)	駐車場整備方針	35
(6)	駐輪場の現状と整備方針	36

7	大垣城本丸エリアの再整備	37
(1)	大垣城の整備	37
(2)	大垣城の利用状況	37
(3)	大垣城本丸エリアの再整備	41
(4)	大垣城本丸エリアの主な施設	43
(5)	大垣城の学びの環境整備	44
8	大垣城天守の景観整備	46
(1)	大垣城周辺の景観保全	46
(2)	大垣市景観計画の主な改定内容	46
9	官民連携による事業手法等	49
(1)	官民連携による事業手法と概算事業費	49
10	むすび	51
11	参考資料	52
(1)	検討経過	52
(2)	大垣公園等再整備基本計画市民検討委員会委員名簿	56
(3)	大垣公園等再整備基本計画市民検討委員会設置要綱	57

1 はじめに

大垣公園は、中心市街地に位置し、大垣城を核とした、大垣城ホールや芝生広場を含む公園で、街の象徴的な場所でもあります。

その再整備に当たり、本検討委員会では、幅広い視点で、公園等に求められる機能や施設などについて、大垣公園等再整備基本構想(令和5年3月策定)を踏まえつつ、令和6年6月から8回にわたり検討を行ってきました。

この検討においては、基本構想で掲げた基本理念である「100年先も愛され続ける大垣のシンボルパーク」の実現を目指し、公園等のゾーニングと動線、新たな大垣城ホールの機能と規模、大垣城周辺の再整備など、基本構想における今後の検討事項等に基づき、議論して参りました。

新大垣城ホールにおいては、イベント・コンベンション等による中心市街地のにぎわい創出や、子どもが公園と屋内施設で一体的に遊べるなど、「にぎわい創出・誘客促進」、「子育て等支援」、「防災」の3つを求められる機能としています。

本提言は、少子高齢化や社会経済状況の変化等を考慮しつつ、大垣公園等に求める機能と、今後の基本設計において必要となる諸条件について、市民目線による「大垣公園等再整備基本計画」をとりまとめたものです。

2 新大垣城ホールの機能及び規模

(1) 新大垣城ホールの機能

現大垣城ホールの利用状況を踏まえつつ、大垣公園等再整備基本構想「第4章 新たな時代に向けた大垣公園等の再整備方針」で示した「3. 主な機能と検討事項」に基づき、新大垣城ホールに求められる機能を検討しました。

第4章 新たな時代に向けた大垣公園等の再整備方針

3. 主な機能と検討事項

- ・ 中心市街地のにぎわい創出につながり、かつ、現公園敷地外への配置
- ・ 大垣公園と一体的に利用できる新たな拠点としての整備
- ・ 各種イベント、学校体育から大人の軽スポーツ、レクリエーション、健康増進、生涯学習等の多様なニーズへの対応
- ・ 屋内で子どもが遊べる場所や乳幼児を含め休憩ができる場所等の整備



(2) 新大垣城ホールのコンセプト

大垣公園等再整備の基本理念である、「100年先も愛され続ける大垣のシンボルパーク」を始め、基本方針のひとつである「市民が集い『にぎわい』のあれふる公園」等を踏まえ、現大垣城ホールの多目的機能を継承した、世代や立場を問わずみんなが集える施設とするため、新大垣城ホールのコンセプトを次のとおりとします。



(3) 現大垣城ホールの施設規模

① 建築面積

3,665.80㎡

② 床面積

5,510.36㎡

③ 主な部屋面積



棟		階数	主な部屋	床面積(㎡)
1	管理棟	1階	玄関ホール、事務室、相談室、倉庫 ほか	409
		2階	会議室、研修室、洗面室、便所 ほか	563
		3階	多目的室、更衣室、倉庫 ほか	465
		小計		
2	ホール棟 (競技棟)	1階	大ホール、ステージ、会議室、打合室、控室、湯沸室、便所、多目的トイレ、倉庫 ほか	3,052
		2階	観覧席、更衣室 ほか	1,021
		小計		
合計				5,510

(4) 新大垣城ホールの施設規模等

新大垣城ホールに求められる機能などを踏まえ、導入施設の施設規模等を検討しました。

① 新大垣城ホールの規模

1) 多機能ホール

ア 面積

- ・県内における企業説明会や催事会場として使用できる施設のアリーナの平均面積である、約1,800㎡程度を確保し、西濃圏域の中心的なアリーナ型のイベント/コンベンション施設を目指します。
- ・十万石まつりやおおがきマラソン等、集客力の高い中心市街地におけるイベントと一体的に活用し、中心市街地のイベントの持つ魅力を強化できる施設とします。



【表1：県内のコンベンション施設の現況】

No.	所在市	施設	建設年	ホール面積(㎡)	観覧席数			ステージ形式
					固定	可動		
1	岐阜市 (岐阜)	岐阜メモリアルセンター[県]	昭和61年 (1985)	2,200	4,065	2,805	1,260	移動式 (備品設置型)
2	岐阜市 (岐阜)	OKBぎふ清流アリーナ[県]	昭和40年 (1965)	1,919	2,096	2,096	0	可動式 (壁収納型)
3	大垣市 (西濃)	ソフトピアジャパンセンター[県]	平成8年 (1996)	948	なし	-	-	移動式 (備品設置型)
4	高山市 (飛騨)	飛騨コンベンションセンター[県]	平成14年 (2002)	1,820	480	0	480	可動式 (昇降型)
5	中津川市 (東濃)	東美濃ふれあいセンター	平成12年 (2000)	2,320	2,080	1,280	800	可動式 (壁収納型)
6	下呂市 (飛騨)	下呂交流館	平成21年 (2009)	1,824	910	910	0	移動式 (備品設置型)
平均				約1,839	約1,605	約1,182	約423	

※「()」内は圏域名(中濃はアリーナ型コンベンション施設がない)。

※圏域人口：岐阜圏域 約781千人、西濃圏域 約344千人、中濃圏域 約353千人、東濃圏域約309千人、飛騨圏域 約131千人(令和6年6月現在 岐阜県人口動態統計調査)

イ 天井高

- ・天井高は、現大ホールと同程度とし、多様なニーズに応えるため、大空間を確保します。

ウ ステージ



移動式（備品設置型）ステージ

- ・市民活動や生涯学習の成果発表の場、記念式典などに使用するステージを設置します。
- ・現大垣城ホールのステージ利用状況、他市町の施設・利用状況、ステージ設置形式の比較を踏まえ、ステージは、常設では設置せず、施設使用者の仮設及び移動式(備品設置型)での対応とします。

【表2：ステージの利用日数・利用率（令和元年度～令和4年度）】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平均
イベント等 ※1	日数 ①	39	9	17	5	18
	利用率 ①/②	12.7%	3.4%	6.3%	1.7%	6.3%
スポーツ等 ※2	日数 ①	82	45	66	70	66
	利用率 ①/②	26.8%	17.3%	24.6%	23.3%	23.2%
合計	日数 ①	121	54	83	75	83
	開館日数 ②	306	260	268	300	284
	利用率 ①/②	39.5%	20.7%	30.9%	25.0%	29.2%

※1 「イベント等」での利用は、ダンスやコンサートなど各種イベント会場等。

※2 「スポーツ等」での利用は、大会本部席や練習会場等。

エ その他

- ・利用者の利便性向上のため、空調設備を計画します。
- ・災害時の一時的な宿泊施設機能を維持するために必要な設備機器等を計画します。
- ・各種イベント等を想定し、外部から大型器具などの搬入に必要なスペースや搬入口を計画します。



2) 観覧席

ア 席 数

- ・現大垣城ホールの観覧席利用状況や他市町の施設の状況等を踏まえ、観覧席は固定席とします。
- ・座席の間口は、現在の1人当たり416mmから500mmとし、座席数は、約1,000席を確保します。
- ・新たに車いす利用者席を設け、多機能ホール全体を見渡すことができる2階に配置することで、利用者の満足度を高め、かつ1階ホール周囲に器具庫や諸室を計画的に配置し、空間の有効活用を図ります。



【表3：市内他施設の現況】

施設	競技場 (㎡)	天井高 (m)	観覧席数			座席 間口 (mm)	
			固定	車イス	合計		
1 大垣市総合 体育館	第1体育館	1,770	11.3~20.8	1,300	-	1,300	416
	第2体育館	1,049	7.0~13.5	-	-	-	-
	第3体育館	540	5.2	-	-	-	-
2 武道館	第一道場 〔剣道場〕	1,209 (965)	7.8	192 (448)	5	197 (453)	500
	第二道場 〔柔道場〕	1,209 (965)	7.8	192 (448)	5	197 (453)	500
3 上石津総合体育館	1,454	10.7~14.0	420	-	420	416	
4 現大垣城ホール	1,508	12.6~16.2	1,180	-	1,180	416	

()は、可動席使用時

3) 会議室・事務室等

ア 会議室・多目的室・事務室

- ・会議室は、市民活動を支援する交流スペース、競技大会時の役員控室やイベント開催時の受付会場などとしても利用できるよう、現在と同様に、大・中・小の計3室程度を計画します。
- ・多目的室は、軽スポーツや作品展示の会場等に利用できる現在の多目的室に加え、卓球利用率の高い研修室も多目的室として同規模2室程度で計画します。
- ・事務室は、来館者への対応を優先的に考え、ロビーから目につきやすく、かつ、施設管理者からの見通しがきく配置とします。



イ 屋内遊戯広場

- ・子どもが安心して遊ぶことができる年齢層別の遊びの空間を確保するため、新たな機能として計画します。
- ・親子で一緒に遊んだり、子どもの遊びを保護者が見守ったりすることができる、安全に配慮した施設とします。



4) その他施設

ア 倉庫・器具庫

- ・新たに防災備蓄倉庫を配置し、防災機能を拡充します。
- ・倉庫は、床養生シートや折り畳み椅子等が収納できる規模を分散して配置します。
- ・器具庫は、体操器具等が収納できる規模とし、諸室とともに多機能ホール周囲に配置します。



イ 機械室等

- ・新たに設ける空調設備機器などを配置する機械室を計画します。
- ・災害時でも機能を維持するために必要な設備機器を配置する発電機室や燃料庫などを新設します。

ウ 廊下・階段等

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、可能な限り段差のない計画とするとともに、適切にエレベーターを設置します。
- ・避難経路としても利用する廊下や階段は、建築基準法等を遵守するとともに、バランスよく配置し、安全に安心して利用できる施設とします。



エ その他

- ・主出入口は、回遊性の向上を考慮し、駅通りの歩行者から認識しやすい位置に、その他出入口は、競技大会や各種イベント、芝生広場や駅通りとの一体的利用に配慮し、バランスよく計画します。
- ・競技大会等へ対応するため、新たに医務室を設置する共に、更衣室等を計画します。
- ・医務室は、多機能ホールを見通しがきく配置とし、役員室や放送室を兼ねて計画します。
- ・トイレは、災害時の対応も考慮に入れ、適切に計画します。
- ・多機能便所は、車いす使用者が安心して利用できる広さや手すりなどに加えて、オストメイト対応の設備、おむつ替えシート、ベビーチェアなどを備えることで、誰でも安心して利用できる設備とします。

② 新大垣城ホールの床面積

新大垣城ホールに導入する施設の必要となる床面積は次のとおり見込みます。

部屋		現施設 (㎡)	新施設 (㎡)	備考
1	ホール施設	2,463	約2,500	
	① 多機能ホール	1,508	約1,800	現施設の約1.2倍程度
	② ステージ	289	0	
	③ 観覧席	666	約700	
2	会議室・事務室等	765	約1,000	ホールに合わせ約1.2倍程度
3	その他施設	2,282	約4,400	
	① 倉庫・器具庫	399	約500	ホールに合わせ約1.2倍程度
	② 機械室	64	約500	新たな災害対応の発電機室や燃料庫と空調設備の機械室を想定
	③ 廊下・階段等	1,250	約2,700	廊下・階段幅の拡充により約2.0倍程度を想定
	④ その他	569	約700	ホールに合わせ約1.2倍程度
合計		5,510	<u>約7,900</u>	



新大垣城ホールの必要床面積

現施設の約1.4倍程度

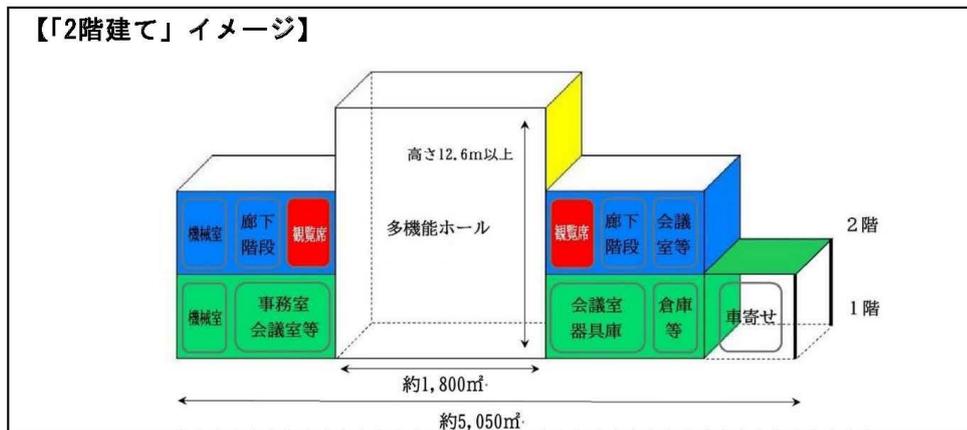
③ 新大垣城ホールの階層（フロア）等

新大垣城ホールの必要床面積から、建物を計画するために最低限必要となる建築面積（建物を上から見た面積）を算定し、「2階建て」と「3階建て」について、建物の階層を検討します。

1) 最低建築面積の試算

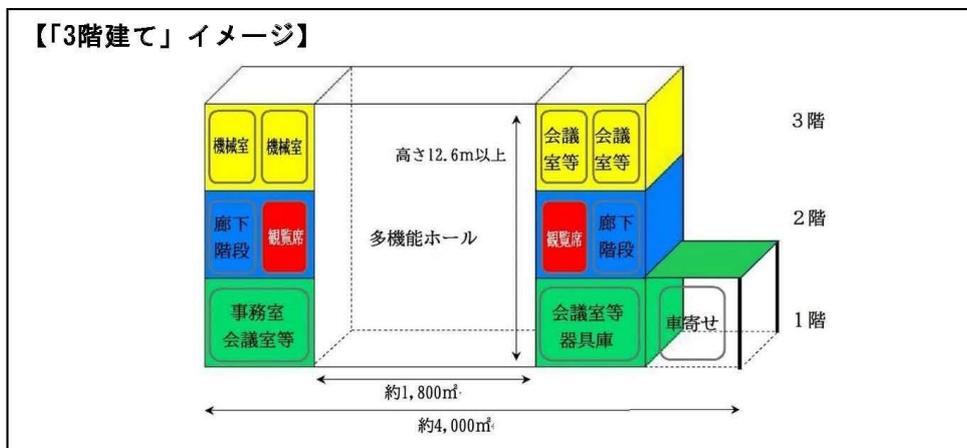
ア 「2階建て」の場合

必要床面積	ホール等床面積	階層	ホール等建築面積	車寄せ想定面積	最低建築面積
(約7,900㎡ - 約1,800㎡) ÷ 2層 +	約1,800㎡ +		約200㎡	÷	<u>約5,050㎡</u>



イ 「3階建て」の場合

必要床面積	ホール等床面積	階層	ホール等建築面積	車寄せ想定面積	最低建築面積
(約7,900㎡ - 約1,800㎡) ÷ 3層 +	約1,800㎡ +		約200㎡	÷	<u>約4,000㎡</u>

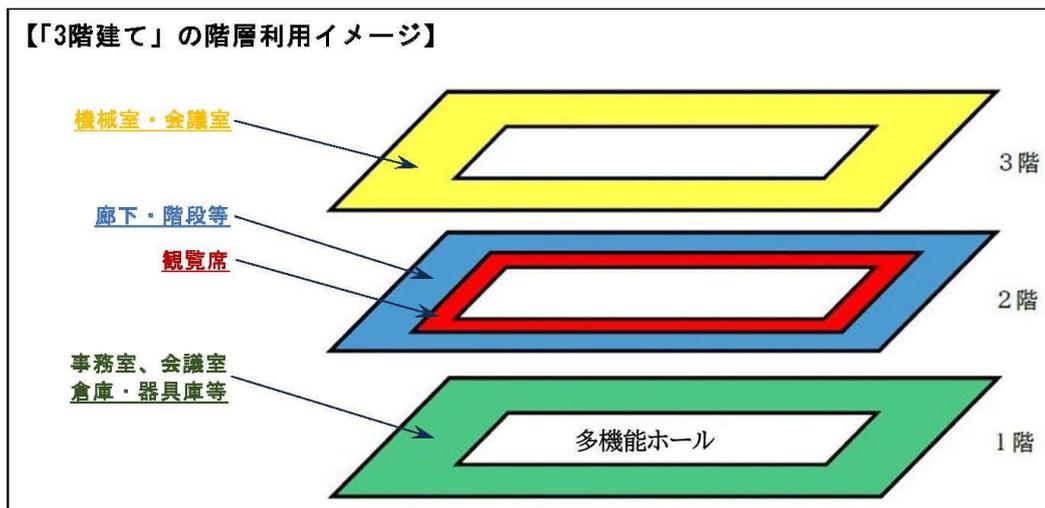


2) 階層・最低建築面積

多機能ホールの天井高は現大ホールと同程度確保することや、観覧席を2階に配置することを条件に、「2階建て」と「3階建て」の最低建築面積を比較検証した結果、立面空間を有効活用できる「3階建て」が、建物や敷地を検討する上で経済設計であることから、建物の階層は「3階建て」が最適であると考えます。



階層：3階建て、最低建築面積：約4,000㎡



【表4：市内他施設の現況】

施設		建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	階数
1	大垣市総合体育館	8,896	10,329	2階(第1・2体育館)
2	武道館	7,936	10,926	3階
3	上石津総合体育館	2,886	2,912	2階
4	現大垣城ホール	3,666	5,510	3階(管理棟部分)
5	新大垣城ホール	約4,000	約7,900	3階

3 新大垣城ホールの建設候補地

(1) 建設候補地の条件整理

大垣公園との一体性や中心市街地に位置する特性など、主な機能と検討事項を整理し、候補地に必要な5つの条件を定めます。

① 現公園敷地外への配置

大垣公園等再整備基本構想において、現公園敷地外への配置。

② 中心市街地のにぎわい創出

駅通りのイベント等と一体的に活用でき、中心市街地のにぎわい創出が期待できる位置。

③ 公園との一体性

大垣公園と一体的な利用が期待できる位置。

④ 最低建築面積等の確保

建物を計画するための最低建築面積、約4,000㎡以上に加え、道路に面した前面空地、約550㎡以上を確保できる位置。

⑤ 市の所有地の有効活用

整備費用を抑制するため、市の所有地を有効活用できる位置。

(2) 候補地の検討結果

現公園敷地外であって、中心市街地のにぎわい創出、大垣公園との一体性、建築面積等の確保、市の所有地の有効活用の5つの条件をすべて満たした、大垣駅通りに面し、現大垣公園に隣接する「郭町2丁目地区」が最も候補地に適していると考えます。

